

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

これまで10年以上取り組んできた当社の環境エネルギー部門を母体とした株式会社シャペロンや共同研究を進めてきた熊本県立大学と共同で、熊本県内を中心とした焼酎メーカーから排出される焼酎粕を処理してアミノ酸を抽出し、さらにバイオガス発電を行う事業の構築を目指します。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に◎)	SDGsに関する重点的な取組み	指標
◎環境 ○社会 ○経済	これまで10年以上取り組んできた当社の環境エネルギー部門を母体とした株式会社シャペロンや共同研究を進めてきた熊本県立大学と共同で、熊本県内を中心とした焼酎メーカーから排出される焼酎粕を処理してアミノ酸を抽出し、さらにバイオガス発電を行う事業の構築を目指します。	1日の処理量100トン
○環境 ◎社会 ○経済	県警や暴力追放センターと協力しての防犯意識の啓発や職場の働き方改革を推進します。	有給休暇取得率100%及び残業ゼロを目指します。
○環境 ○社会 ◎経済	焼酎粕の処理技術により、アミノ酸抽出及びバイオガス発電により、社会全体の経済効率を高めます。	年間発電量:約 16,000mwh

<パートナーシップ>

株式会社シャペロン、熊本県立大学、熊本県内を中心とした焼酎メーカー及び九州圏内、中国地域の焼酎メーカーとのパートナーシップを形成していきます。

- ・現在、焼酎メーカーから排出される焼酎粕は再利用されることなく、たい肥、あるいは焼却処分されているのが現状です。
- ・当社の環境エネルギー部門は13年かけてその処理技術について焼酎粕からアミノ酸を抽出する技術を実用化し、実用新案を取得しました
- ・その後、アミノ酸を単離分解し、必須アミノ酸を8~9種類抽出するための技術開発のために熊本県立大学の協力を得ての共同研究によって、その抽出技術を実用化しました。
- ・さらに、アミノ酸を抽出した焼酎粕の残渣についてはバイオガス発電の原料にすることで、さらなる再利用を可能にしました。
- ・当社の実用新案については、当社の環境エネルギー部門を分社化した(株)シャペロンに通常実施権を与え、(株)シャペロンにて、熊本県内で実用プラントを令和3年内に着工する予定です。
- ・現在、当社の技術を事業化する(株)シャペロンにて熊本県内を中心とした焼酎メーカー及び九州圏内、中国地域の焼酎メーカーから多数、プラント稼働後の処理依頼を受けております。
- ・当社と熊本県立大学の石橋教授と共同開発した焼酎粕からアミノ酸を抽出する技術、そしてその技術の通常実施権を得て事業化する(株)シャペロン、さらに焼酎粕を排出する焼酎メーカー、これらのパートナーシップから産み出される新たな環境事業、これが当社のパートナーシップといえます。

- ・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
- ・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
- ・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携があれば記載してください。

○ SDGs に関する重点的な取組み及び指標に係る進捗状況(※更新の場合のみ。)

○登録状況:第 期登録(登録年月日: 年 月 日)

○登録番号: 号

<SDGs に関する重点的な取組み状況、前期の指標及び実績>

三側面 (分野に◎)	取組みの状況	前期の指標	実績
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			
○環境 ○社会 ○経済			

・「登録状況」及び「登録番号」を記載してください。

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。